

Influence of physical activity before and during pregnancy on infant's sleep and neurodevelopment at 1-year-old

中原, 一成

<https://hdl.handle.net/2324/4784499>

出版情報 : 九州大学, 2021, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : This article is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

氏 名： 中原 一成

論文名： Influence of physical activity before and during pregnancy on infant's sleep and neurodevelopment at 1-year-old

(妊娠前および妊娠中の母体身体活動量の、1歳児における睡眠・発達への影響)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究の目的は、妊娠前および妊娠中の母体の身体活動量と、1歳児の睡眠および発達の問題との関連を調査することである。

2011年から2014年の間に103,062人の妊婦をリクルートした、全国出生コホート研究のエコチル調査のデータを利用した。参加者は妊娠前および妊娠中の身体活動量および児が1歳となった際の睡眠や発達について回答した。母体の身体活動は国際標準化身体活動質問票 (IPAQ) を使用して、1週間あたりの身体活動量 (METs・分) を推定した。これに基づき、妊娠前および妊娠中の身体活動量によって参加者を5つのグループに分けた。児の発達は、年齢と発達段階に関する問診票 (ASQ) を用い、カットオフを下回る場合を発達の異常と定義した。

身体活動量が多い群では、児の就寝時刻が22時以降であること、およびASQの異常のリスク比が有意に低かった。これは妊娠前および妊娠中のいずれの身体活動量でグループ分けした場合でも認められた。

妊娠前と妊娠中のいずれにおいても、母体の身体活動量が多い群では、児の睡眠や発達の問題のリスク比が低い可能性が示唆された。